

学校教育目標

「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

1. 「自ら学ぶ生徒」(知)
自律的で思考力に富む人間
2. 「心豊かな生徒」(情)
心豊かな潤いのある人間
3. 「よく働く生徒」(意)
たくましく実践力のある人間
4. 「体を鍛える生徒」(体)
健康ではつらつとした人間

敦島中「学校通信」

< 第 3 号 >

令和元年6月28日

文責 中満 一幸



紫陽花と蝸牛



1学期期末テストがやってきました～『学ぶ』ということ

6月27日(木)～28日(金)の2日間で、一学期期末テストが実施されました。どの教室を見ても、真剣に取り組む生徒の皆さんの姿が大変印象的でした。最後まであきらめない姿勢を感じています。

さて、この機会に『学ぶ』ということについてお話ししたいと思います。『学ぶ』という言葉には諸説語源があるようですが、生徒の皆さんにとってどんなことかを考えたいと思います。皆さんが赤ちゃんの時に、最も身近な存在はお母さんです。お母さんの表情や言葉かけ、そして笑顔から様々な感情を学びます。もっとも早く憶えるのは、やはり、「食べること」です。お母さんが皆さんの口に食べ物を運ぶ時、よく「マンマ」などの言葉を使います。「マンマ」という言葉によって、あなたが欲しい「食べ物」が出てくることを理解します。つまり、この段階での『学ぶ』は「真似る」ことから学びがスタートします。小学校低学年くらいまではこのように「真似る」ことが多いと思います。では、中学校における『学び』とは何でしょうか？このことを考えるエピソードがあります。

中国、漢代の有名な将軍張良は、若い頃の修行中、旅先で黄石公という老人に出会いました。その老人は「自分は太公望秘伝の兵法の奥義を究めたが、君はみどころがあるので奥義を伝授しよう」と語る。張良は大変喜び、黄石公の弟子になることを決意する。だが、老人が張良に教えることはなく、張良は毎日師匠である老人の世話で明け暮れる。張良はしだいにイライラが募っていく。そんなある日、街中を歩く張良は、馬に乗ってこちらに向かってくる黄石公老人に出会う。馬が張良の前に来ると、老人の左足のクツがポロリと脱げる。「履かせよ」と老人は左足を差し出す。張良は黙って師匠の左足にクツを履かせる。別の日、張良が街を歩いていると、ふたたび馬に乗った黄石公老人に出会う。今度は、師匠の両方のクツがポロリと脱げる。「履かせよ」と二本の足を差し出す黄石公。張良は、前と同じように師匠の両足にクツを履かせる。その瞬間、張良はすべてを悟り、兵法の奥義を会得したという。

ここには見逃せない重要なことがらが示されています。黄石公老人と張良の間におきたことは、何の変哲もない出来事です。しかし張良にとってこの出来事は、何の変哲もないと捉えられたわけではありません。1回目クツが脱げたとき「老人だからしょうがない」と思ったかもしれませんが、しかし2回目は、張良にとって「たまたま」とは思えなかったのです。老人は、「兵法の奥義を伝授しよう」と声をかけてくれたはずですが、張良は、兵法の奥義を究めたいと熱望していたはずですが、この2度あったことを偶然とは思えないはずですが、つまり、「師匠が兵法を教えているはずだ」とするほかありません。では、黄石公老人は張良に何を教えようとしていたのでしょうか。老人が発した言葉は「履かせよ」一言だけです。老人に教える意図があったかどうかは不明です。このエピソードで大切なことは、張良にとって師匠が兵法を教えていると受け取り、理解したことで老人に教える意図があったかどうかは問題ではありません。もっと簡単に言えば、張良が「勝手に学んだ」ということです。なぜ、張良が兵法の奥義を学ぶことができたかと言えば、張良は、老人と出会った時に兵法の奥義を究めるにはどうしたらいいか考え続けていたからです。「お腹がすいた」など別のことを考えていたら、師匠が教えているとは受け取らなかったはずですが、「教える＝学ぶ」という過程は、基礎的・基本的な場面では、贈り主がプレゼントを手渡すように感じるかもしれません。しかし、本当の「学ぶ」ことは、教える者が知識や情報を学ぶ者へ移す営みではありません。学ぶ者の姿勢と営みこそが、知識や情報を獲得させるのです。「これなんだろう?」「おもしろいぞ!もっと調べてみよう!」等々学ぶことを決める生徒のみなさんにかかっています。期末テストはとても大切なことです。このような学びを生徒のみなさんが見つけられるといいなと思います。

最後に、「学」の旧字は『學』と書きます。この文字を分解すると、**白**は、両手を表します。**爻**は、先生と生徒、生徒どうしの交流を表します。**子**は学校、当然 **子**は生徒のみなさんのことです。生徒のみなさんが、本当の意味の「学ぶ」が獲得できるよう、先生方と一緒に頑張りましょう。



「あんなこと・こんなこと」学校の様子から

6月は、中学校にとって最も忙しい時期といっても良いでしょう。さまざまな行事が目白押しなのが、「6月」です。学校内外を舞台に展開された生徒のみなさんの活躍をお伝えするには、画像が一番であると思います、学校だよりに掲載いたします。



<その1>

6月12日(水)甲府支援学校との交流会に学校を代表し1年2組のみなさんが参加しました。

<その2> 6月13日・15日に実施された中巨摩総体での生徒のみなさんの活躍の様子です。



<その3> 6月22日(土)有価物回収の様子です。



※生活委員は、「美しい下駄箱」環境を全校に呼びかけ、日々、当番活動に励んでいます。地道な活動ですが、毎日の努力を惜しみません。ありがとうございます！

